

平成30年度 第3回 学校運営協議会 議事録

1 日時 平成31年2月28日(木) 16:00～17:20

2 場所 校長室

3 出席者

4 次第

開会

校長あいさつ

会長あいさつ

平成30年度学校経営計画及び学校評価について

平成31年度学校経営計画及び学校評価について

その他

校長あいさつ

閉会

5 協議・意見交換

・平成30年度 学校教育自己診断アンケート(後期)まとめについて

校長:回収率 教員は100%にしたい。保護者、生徒も90%をめざしたい

内容も書きやすいものにしたい。来年度から府立は食育に関する項目を作るように言われている。

委員:Q5「先生ははじめについて・・・」の項目、3年生が62%と低いのが気になる。

Q7「担任の先生に以外にも、気軽に相談できる・・・」も69パーセントと低い。

校長:正直に言ってもらえるのはありがたい。ちゃんと見てほしいということ。

真摯に受けとめたい。

委員:逆にQ12「現場実習を通して・・・」は就労をめざした学校で、実習にもたくさん行かれてるので、高い。生徒も実感できているのではないか。

委員:トータルのパーセンテージを出せばいいのでは?

進路決定の時期なので不安定さから、3年生が一概に大変だったとは思えない。

先生と生徒との関係、対人との問題。これはカリキュラムの別のところで、この結果を生かして行ってほしい。

・平成31年度経営計画及び学校評価について

校長:めざす学校像をもとに3年計画のつもりで達成させていきたい。数値を上げていきたい。校長マネジメント予算 100万円配当がある。学校経営計画の取り組みの中にきちんと触れていなければならない。

委員:「3 本年度の取り組み内容及び自己評価」の二の(1)について

この学校は企業就労は全員なのでは? 100%は当たり前ではないか?

校長：この学校に在籍している生徒はほぼ就労希望しているが、中には何かでつまづいた時に、「この学校に来たくなかった、一般校に行きたかった。先生がここしかないと言うので仕方なしに来た。大学に行きたい」と言う生徒もいる。実際にここへ来てやりたいたいことが見えてきた生徒もいる。

委員：入学してきた生徒はまだ働く意味合いがわかっていないのでは？学校生活を通して働く意味合いがわかってくる。

委員：ノルマはないのか？

校長：教育庁の目標は80%は達成してほしいとされている。また、府立の支援学校全てに職業コースができた。全国的な就労率は35%。大阪は26%。去年は29%になったが、大阪は全国平均より低い。たまがわができて上がってきてはいる。

委員：「希望者100%・・・」部分は削除した方がいいのでは・・・

校長：すながわの1期生は85%、2期生は90%を切るくらいか。私立大学にも進学した生徒、職業訓練校にも行った生徒もいたし、2年目にようやく就労できた生徒もいた。

委員：最初は就労をめざしていた生徒がここで学ぶようになって、スキルを高めてから訓練校を目指すのはいいことだと思う。問題は、ここに来たくなかった、療育手帳も急いで取った、中学校の先生からあなたはここしかないよと言われて、生徒の心がついていかないまま、追いついていないまま来てしまう子がいるということ。何割かいるというのはデータとして、これがどんな影響があるかということ中学校や府教委にも伝えていかないといけない。進路変更する生徒は、一般では就職に結びつく支援がないときびしいということ、進路変更してからの道が働くことにつながっていくのか、趣味として楽しむために必要なのか、よく考える必要がある。

校長：受検のミスマッチ。わけがわからないうちにかけこみ的に来る生徒の問題について、こちら受身になってはいけないのではないかと、中学校向けに研修会をひらく、在籍していた中学校へ現在の様子を伝えるなどこちらから発信していきたい。支援学校としてミスマッチを防ぐという意味で教員もうってでようという気持ちがある。今年倍率1.6倍だった。48名のところに77名受検した。29名が不合格になる。

委員：どんな適性検査か？

校長：筆答、作業検査、面接、調査書、自己申告書、推薦書で判断する
高等支援学校を受検するための塾もある（放課後デイサービス）

委員：訓練校は筆答、作業が低くても、やる気がある子を面接で判断していた。

校長：出願からのミスマッチを防ぎたい。問題は、オープンスクールや学校見学に1度も参加していない生徒が出願している。オープンスクールでは、こちらの思いを伝えているが、その話を聞いていない学校から出願してしまう。

委員：たとえば、学校見学、オープンスクール参加を必須条件にできないのか？

校長：それはできない。

委員：訓練校は学校見学が必要であると伝えている。

校長：そういった雰囲気をもたせるために、こちらから発信していかないといけない。合格者11名は大阪市外から。この割合はもっと高くなるだろう。最初は大阪市中心に訪問していきたい。生徒が不幸せにならないように。文言を少し変更していきます。